

1 研究主題

「豊かに学ぶ児童の育成」

～学びを支える1人1台端末の活用を通して～

2 主題設定の理由

人工知能 AI 等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつある今日、学校教育においても情報化が急速に進んでいる。令和元年6月には学校教育の情報化の推進に関する法律が施行され、また、GIGA スクール構想により、新たな学校のスタンダードとして学校における高速大容量のネットワーク環境の整備が推進されるとともに、令和3年度からは児童1人1台端末環境での学習が開始された。学習の場でもあり生活の場でもある学校において、社会で広くなされているように端末を日常的に活用することは、社会に開かれた教育課程を実現する上でも極めて重要であり、児童一人一人が ICT を文房具として自由な発想で活用できるよう環境を整え、授業をデザインすることは質の高い学びを実現する上で必要不可欠である。

令和2年度より完全実施された小学校学習指導要領では、生きる力をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力について、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養の3つの柱で明確化された。また、児童生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成するために、各教科の特質を生かし教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることが重要視された。そうした中、中央教育審議会答申（令和3年1月26日）では、目指すべき新しい時代の学校教育の姿として「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」が提言された。そこで、児童の資質・能力を育成するに当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培ってきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが大切である。

本校は、令和3年度より2ヶ年、佐賀県教育委員会より「1人1台端末を活用した授業改善研究」の指定を受け、児童の主体的・対話的で深い学びの視点に沿った「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指し、1人1台端末を活用した授業改善研究に算数科を中心に取り組んできた。

昨年度は、1人1台端末のカメラ機能や Word、PowerPoint などのソフトウェアを活用し自分の考えを表現したり、Teams や Forms などのコミュニケーションツールを活用しお互いの考えを共有したり、学年に応じた活用法を考え実践することで学びを深めていった。

今年度は、研究主題を『「豊かに学ぶ児童の育成」～学びを支える1人1台端末の活用を通して～』とし、教科等横断的な視点に立って、「自分の思いや考えをもつ」「思いや考えを深める」「思いや考えを伝え合う」の3つの過程において1人1台端末の効果的な活用法を探っていく。

自分の思いや考えをもつ過程では、学習のねらいに即して一人一人がめあてをもち、1人1台端末を活用した探究的活動を行い、自分の考えを形成できるようにする。また、思いや考えを深めたり、伝え合ったりする過程では、昨年度同様 Teams や Forms を活用した協働的な学びを展開する。

このように1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実していくことで、豊かに学ぶ児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

◎ 目指す児童の姿

- 一人一人が学習のねらいに即しためあてをもち、1人1台端末を活用しながら、課題解決に向けて見通しをもち粘り強く取り組み、その過程を振り返ることでよりよい解決方法や新たな問いを見いだしたりする姿。
- 1人1台端末を活用しながら、自分の思いや考えを積極的に伝え合い吟味することで、学習のねらいに即しためあてを達成したり、自己の思いや考えを深めたりする姿。

3 研究の目標

豊かに学ぶ児童を育成するために、1人1台端末等のICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実していく指導方法を探る。

4 研究内容

- ① 自分の思いや考えをもつための1人1台端末の活用方法
- ② 自分の思いや考えを深めるための1人1台端末の活用方法
- ③ 自分の思いや考えを伝え合うための1人1台端末の活用方法

5 研究方法

(1) 授業研究会を実施し、研究を充実させる。

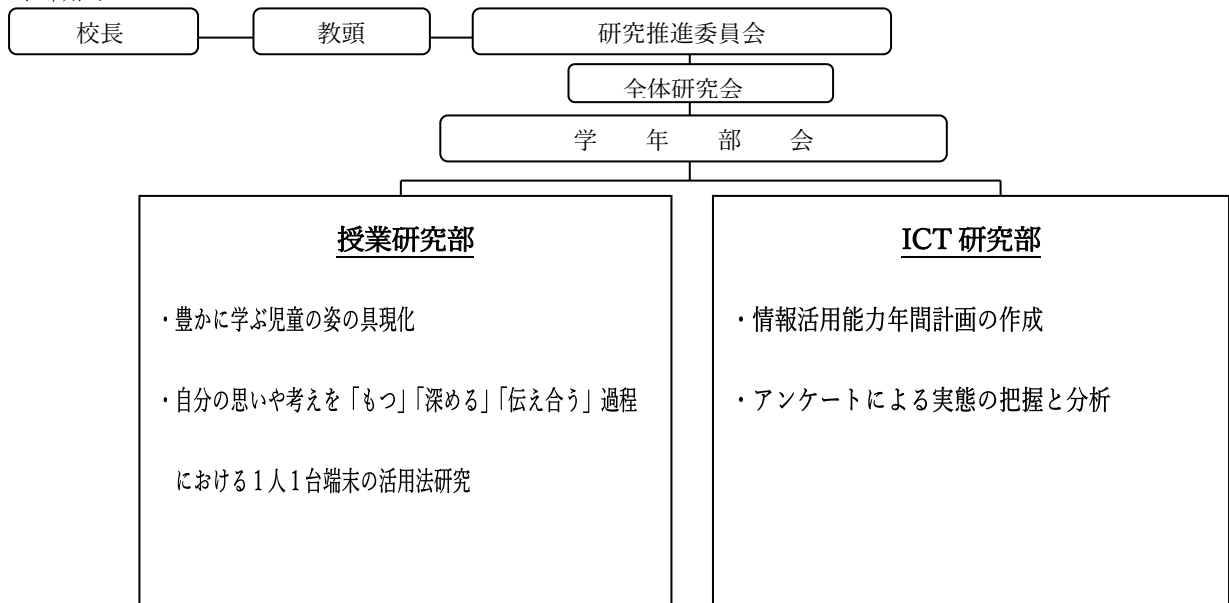
- ① 全体授業研究会
 - ・下学年部会、上学年部会、特別支援部会から1学級ずつ
- ② 公開授業
(令和3・4年度 佐賀県教育委員会指定「1人1台端末を活用した授業改善研究」 11月4日)
 - ・下学年部会、上学年部会、特別支援部会から1学級ずつ
- ③ グループ授業研究会
 - ・全体研授業者、公開授業者以外全員。

(2) 専門部を作り、課題についての研究を深める。

(3) 理論と具体的な授業実践のために講師を招聘し、研究を深める。

6 研究組織

(1) 組織図



(2) 研究推進委員会【校長・教頭・教務（研究主任）・専門部長・下、上、特別支援部代表】

- ・校内研究の骨子を作成
- ・研究内容、方法、計画の立案
- ・児童の意識調査の提案、考察
- ・全校研やグループ研の中で出てきた問題点、課題の協議・解決

(3) 学年部会【下学年・上学年・特別支援】

- ・教材研究と授業実践
- ・指導案の作成
- ・児童の意識調査と分析・活用

(4) 専門部

- ・授業研究部
- ・ICT研究部